



上手な野菜の育て方

タマネギ



1 栽培時期と品種

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
4月獲り				■ ■ ■				○ ○ ○	△ △ △			
5月獲り					■ ■ ■			○ ○ ○	△ △ △			

2 栽培上の注意点

- ①早まきすると大苗になり、とう立ちや分球の原因になります。反対に遅まきの小苗は、植え付け後の生育が悪く、収量があがりにくくなります。
- ②定植時に根や葉を切らないようにし、活着を早めることが大切です。追肥の遅れや莢素の遅効性は、球の肥大成熟を遅らせたり、貯蔵中の腐敗にもつながります。
- ③種まき後、不織布を張ると乾燥防止、害虫予防、発芽率を高める効果があります。

3 敖づくり

植え付けの15日前に基肥を施し、畠立てください。敖幅は、よく乾く圃場では140cmとするが、排水の悪い圃場では90cmの高畠にするようにしましょう。

4 種まき・苗(子球)づくり

種まき期は、定植期から逆算して早生種で50~55日前、晩生種で60日前が良いでしょう。まき床の施肥量と床作りは、種まきの15日前に、1m当たり牛糞堆肥4kg・苦土セルカ2号 200g・BMようりん 50gを施し、土とよくなじませておくようにしましょう。また、種まき2日前に野菜専用化成250 50gを施し、もう一度混合して1~1.2mのまき床を作って下さい。たねまきは、1m当たり20kg程度をむらなくまく。苗が7cmの頃に密生部を1.5cmに間引き、除草もしておく。乾燥防止、害虫対策、発芽率をよくすることを目的に、不織布を張る。育苗中、苗が伸びてくるので、不織布はゆったりとかけるようにしましょう。茎の直径が5~6mmになるまで育苗して下さい。

5 本田肥料

敖づくり時に、3.3m²(1坪)当たり牛糞堆肥13kg・苦土セルカ2号 400g・BMようりん100g・野菜専用化成250 180gを全面に施し耕3cm畠立てする。

追肥は、1回目を定植後20日頃、2回目を1月中・下旬、3回目を2月下旬にそれぞれ野菜専用化成250で、120gずつ条間に施す。

6 定植・灌水

植え付け前日に、苗床に十分灌水し、根を切らないように苗取りする。苗の茎の直径が6~7mm程度の苗を、深植えにならないよう、2~3cm程度の深さで、株間11cmの4千株植えとし、十分灌水する。または、苗床で育った苗を抜き、根を約3cm残してハサミで切り落とす。根の部分だけを10~15分水に浸す。こうすることで植えやすくなるうえに、根を切られたことによって頑張って新たに伸ばそうとしているので、活着がよくなる方法もあります。

7 病害虫防除

苗床で出やすい病気に苗立枯病があり、防除は種まき前後に灌水と兼ねて、登録のある農薬で灌注する。タマネギ除草を失敗すると収量が極端に減るためマルチをしたり、定植時や雑草が増える3月に除草剤を散布する。本田の病気には白色疫病、べと病などの発生がある。ほ場の排水を良くするとともに、降雨の多い時は登録のある農薬で防除する。害虫ではネキリムシ、スリップスの被害があり、定植時に粒剤の土壤混和して防除する。

苗立枯病

オーサイト水和剤80
600倍、収穫前まで、5回以内

白色疫病・べと病

タコニール1000
1000倍、収穫7日前まで、6回以内

ネキリムシ

ガードベイトA
3kg、生育初期、5回以内、株元散布

スリップス(アザミウマ)

マラン乳剤
3000倍、収穫7日前まで、6回以内